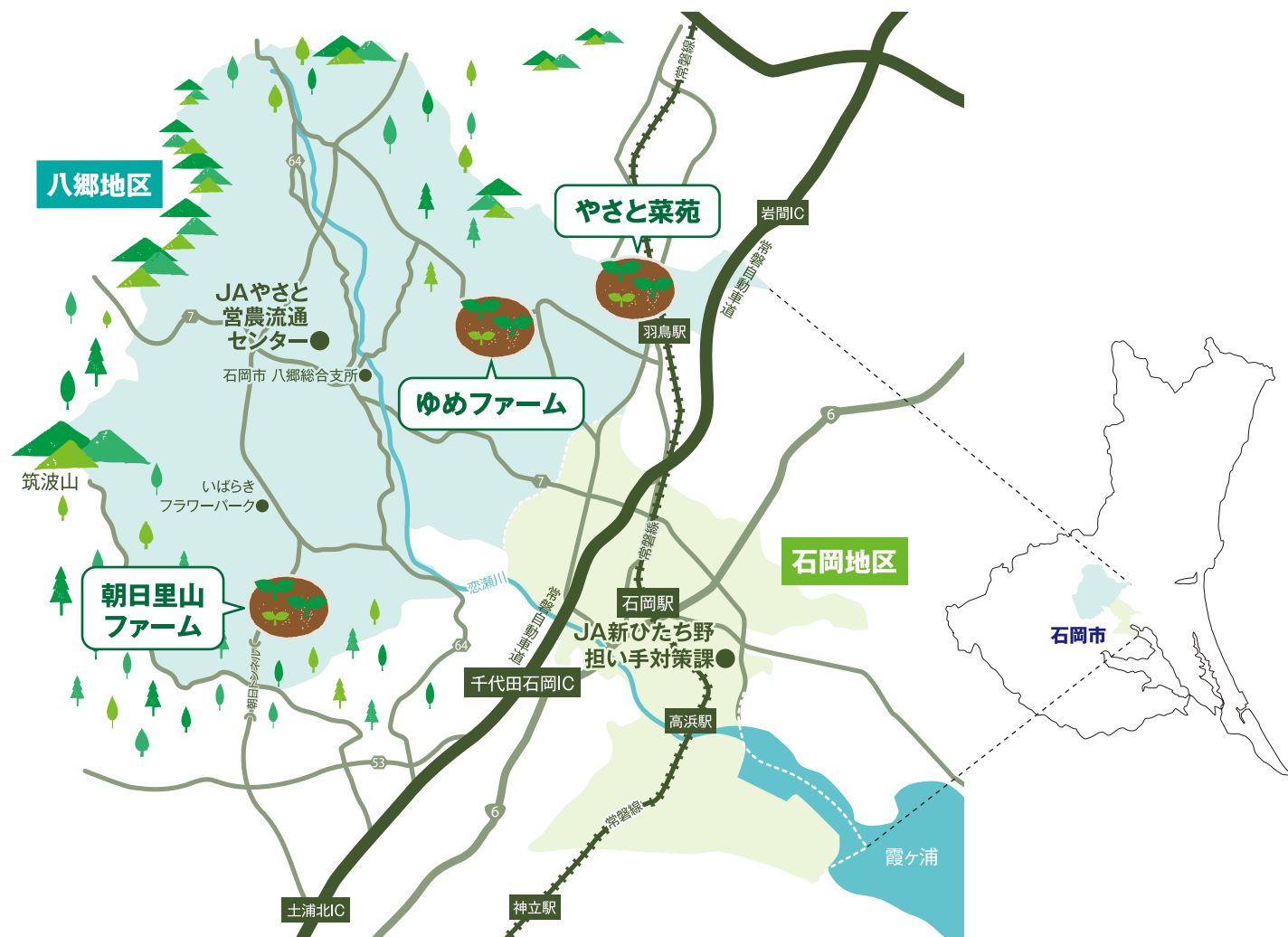


肥沃な大地に触れ、自分の手で育て、収穫する喜びを仕事に。

石岡市新規就農者研修農場 朝日里山ファーム

石岡市で農業はじめよう！



研修 機関

〈朝日里山ファーム〉石岡市

〒315-0143 茨城県石岡市柴内630 TEL.0299-51-3117

〈ゆめファーム〉やさと農業協同組合

〒315-0116 茨城県石岡市柿岡3594-1 TEL.0299-44-1661

〈やさと菜苑〉やさと菜苑株式会社

〒315-0122 茨城県石岡市東成井1333-3 E-mail 8310saien@gmail.com

関連 機関

茨城県県南農林事務所

〒300-0051 茨城県土浦市真鍋5-17-26

経営・普及部門(野菜・果樹) TEL.029-822-8517

企画調整部門 振興・環境室 畜産振興課(畜産) TEL.029-822-8521

公益社団法人 茨城県農林振興公社(茨城県新規就農相談センター)

〒311-4203 茨城県水戸市上国井町3118-1 TEL.029-350-8686

やさと農業協同組合(営農流通センター)

〒315-0116 茨城県石岡市柿岡3594-1 TEL.0299-44-1661

新ひたち野農業協同組合(担い手対策課)

〒315-0035 茨城県石岡市南台3-21-14 TEL.0299-56-5802



石岡市

【相談窓口】石岡市新規就農者支援センター(石岡市役所農政課内)

〒315-0195 茨城県石岡市柿岡5680-1 TEL.0299-43-1111 FAX.0299-43-6384

令和6年2月発行



新規就農者INTERVIEW

ISHIOKA
*Farming
Story*

いしおか就農ストーリー
第2期生 果樹・施設園芸コース(卒業)
後藤 清二さん

第2期生 果樹・施設園芸コース（卒業）

後藤 清二 さん

子どもたちの巣立ちをきっかけに
自分のやりたいことにチャレンジ

後藤さんは今年（令和5年）で、50歳を迎えます。この年齢で新規就農する方はあまりいません。でも、このタイミングだからこそ、就農に踏み切れたと後藤さんは言います。「2人の娘が親元を離れ、子育てが一段落したのがきっかけです。農業には以前から興味があったので、思い切って就農を決意しました。」後藤さんは、以前、八百屋に勤めていたことがあります。その当時から、自分で野菜を育てたいという思いがあったそうです。これまでは、家族のために働いてきた。だから、これからの人生は自分が本当にやりたいことに

挑戦したい……。奥様の後押しもあり、後藤さんの第2の人生が始まりました。

しかし、就農を決意しても何から始めて良いのか分かりません。とにかく農園を始めるための土地を探そうと、笠間市、小美玉市、石岡市などの調査を始めました。そんなとき『朝日里山ファーム』を知り、話だけでも聞いてみようと思われたいと言います。「代表の方がとても良い方で、いろいろとお話を聞かせていただきました。代表のお孫さんが学校の先生をしている私の長女の教え子だと知り、不思議な縁を感じましたね。」

自分一人の仕事には限界がある
人との繋がりが何よりも大切

生産する作物にいちごを選んだのは、

もともと果物に興味があったから。正確にはいちごは野菜ですが、赤い果実には華が有り、毎年、収穫できることも魅力です。しかし、これまで家庭菜園レベルの知識しかなく、生計を立てるための農業を実践するのは初めて。分からないことばかりで、悩むことも多かったと言います。「そんなときは、朝日里山ファームいちご部会のリーダーが、細部にわたって教えてくれました。また、周囲の先輩農家の方々が教えてくださる。とても助かりました。」昨年はいちごの苗を全滅させる事態も発生しました。炭疽病という病気が蔓延してしまったのです。このままでは、収穫を諦めざるを得ない。そんなとき救いの手を差し伸べてくれたのも、近隣のいちご農家でした。何とか

新しい苗を買う手はずを整えてもらい、収穫に漕ぎ着けることができました。「やはり、人と人との繋がりが大切だと再認識しました。自分一人の力には限界があります。いつかは、自分も新規就農者の助けになれるようになりたいですね。」農業を始めたばかりのころは資金が少なく、ビニールハウス内の環境を整える設備を十分に整えることができません。困難を克服するためには、お互いに協力し合う気持ちが重要になるのです。

現在の目標は、少しでも先輩農家に近づくこと。「甘くて美味しいいちごを育て、沢山のの人に楽しんでもらうことが一番の目標です。農業は作物と真剣に向き合う仕事です。でもそれだけじゃない。育てた

家族のためだけではなく
自分の好きなことに挑戦したい。
第2の人生が始まりました！



作物を通して、沢山のひととの関係性を深めて行く仕事でもあると思っています。」

いちご園を法人化して人を雇う
夢は就農への架け橋を作ること

現在“Rafすとりベリーふぁーむ”といういちご園を経営している後藤さん。将来の大きな夢を語っていただきました。「いちご園を法人化して、県内外を問わず規模を大きくして行きたいと考えています。正直に言うと、脱サラをして新規就農するときに問題となるのは資金面です。研修期間は最低限の収入しか得られないので、家族の負担になってしまうこともあります。だから、働いて一定の収入を得ながら農業を学べる環境を作ることが重要だ

と考えています。これから益々、農業は重要な産業になって行きます。未来を担う子供たちのためにも、農業への取り組みを加速させる必要があるのではないのでしょうか。」法人化して人を雇い、就農への架け橋をつくる。それが後藤さんの将来の夢です。



第3期生 果樹・施設園芸コース（研修中）

齋藤 哲也さん

就農の不安を解消するのは
人と人との繋がり。
近隣の農家の方が助けてくれます。
決して一人ではありません！

サラリーマンには得られない
農業の可能性に懸ける

コンビニエンスストア（以下、コンビニ）の東京本社に就職し、その後茨城県にあるコンビニの商品開発会社に転職した齋藤さん。地元の食材を使った商品開発に携る中で、地域の生産者と関わる機会が多くありました。「常陸秋蕎麦の商品を開発しているときに、蕎麦を生産している農家さんの高齢化が問題になっていると聞き、農業に関心を持ちました。自分もこだわりの食材を生産して、多くの方に届けたいと思ったことが、就農を考え始めたきっかけです。」

しかし脱サラをして収納するのは勇氣のいる決断でした。「40歳手前で独身だ

ったので、今しかないと思い就農を決断しました。このまま仕事を続けていても新しい発見は得られないと感じたんです。」

いちごの栽培をベースに
自分なりの農業をスタート

その後知り合ったのが、つくば市でブルーベリーの栽培を行う新規就農者。「自分も挑戦したいと考えていましたが、ブルーベリーだけでは経営が難しいので、他に基幹となる作物の栽培を勧められました。」そこで訪れたのが「朝日里山ファーム」です。「農業に関しては何の知識もなく不安だらけでしたが、先輩農家の皆さんにアドバイスをいただき、いちごを基幹作物にすることを決めました。」

人と人との出会いが支える
「ベリーファーム結」

大学では観光学科に所属し、コンビニでは接客、そしてコンビニのベンダー企業で商品開発の知識を得た齋藤さん。現在の目標は観光農園を開くことです。「これまでに得た知識や経験を生かせるのは、観光農園だと思います。いちごの生産で基盤を築き、ブルーベリーの栽培も手掛けたい。直売所に隣接したカフェをオープンし、ベリー系の商品を多くの人に提供したいと考えています。」その基本を築いたのは人と人との出会い。農園の名称は「ベリーファーム結」。人と人との絆を大切にする思いが込められています。

石岡市の魅力

石岡市は、肥沃な大地と温暖な気候にめぐまれ

東京都心から約70kmという優位性を生かしながら

米、野菜、果樹など、幅広い農業生産が行われています。

特に、きゅうりを始めとした施設野菜、小菊などの露地花き類

れんこんなどの湛水性野菜の生産が盛んです。

また、柿や梨などの果樹類の生産と

近年では有機農業が盛んであり、首都圏で高い評価を得ています。

石岡市の特産



いちご Strawberry

直売や市場出荷、観光いちご園なども盛んで、いばらキッスやとちおとめなどを生産しています。



柿 Kaki

昔から生産が盛んで、富有柿は皇室にも献上されています。令和3年度からはブランド化された「紫峰煌」も販売されています。



梨 Pear

八郷地区は県内有数の梨の産地で、青果物銘柄指定産地に指定されています。



栗 Chestnut

全国上位の生産量を誇っており、焼き栗・むき栗など加工販売も盛んです。



きゅうり Cucumber

表皮が薄くみずみずしい、昔ながらのブルームきゅうりなどが生産されています。



有機野菜 Organic vegetables

70年代から八郷地区に広がり、国内有数の有機野菜産地となっています。



長ねぎ Japanese leek

1年を通して生産され、王道の白ねぎのほか、赤ねぎも人気があります。



かんしょ Sweet potato

茨城県全域で力を入れており、近年は市内でも生産が増えています。



小菊 Small chrysanthemum

県の銘柄産地の指定を受け、年間約350万本が出荷されています。



肥沃な大地と
温暖な気候に恵まれた特産品は、
首都圏で高い評価を得ています



さあ、石岡市で夢をかなえよう

担い手を育てる

朝日里山ファーム

コンセプト

朝日里山ファームは、農業で独立を目指す青年の研修農場です。石岡市柴内にある体験型観光施設「朝日里山学校」周辺の耕作放棄地を再生し、有機農業（有機農業コース）の圃場として整備しました。

また、令和2年度から果樹・施設園芸コースを新設し、果樹（いちご、ぶどう）などの研修制度をスタートしました。



施設概要

- 有機農業圃場 1.8ha
- パイプハウス 2棟
- 資材倉庫 1棟
- 作業場・加工施設 1棟
- トラクター・管理機など農作業機材
※果樹・施設園芸コースは、品目に合わせて圃場を用意します。



新規就農者研修制度

持続的な地域農業のために

有機農業コースでは、研修に必要な圃場、トラクターなどの機材や設備が揃っています。また、栽培については豊富な知識と技術をもった就農指導員が実践的な指導を行うほか、JA やさと有機栽培部会員が自分の経験を生かしたサポートを行います。

果樹・施設園芸コースでは、生産農家が指導員になり、技術の習得や経営面のサポートをします。

就農指導員は、研修終了後の農地の確保や住居の斡旋など、さまざまな問題に対する相談も行い、研修生の独立をあらゆる面でサポートします。



資格・条件など

- 1 研修生となる資格は「農業でやっていく」という強い気持ちがあること。年齢は45歳まで。有機農業コースは夫婦、果樹・施設園芸コースは独身可。
- 2 研修開始までに市内に移住し、居住することが確実であると見込まれる者。
- 3 研修は2年間。毎年1組ずつ受け入れるため、同時期に2組が研修を行うこととなる。
- 4 研修農場、パイプハウス、トラクターなどの農機具や資材は朝日里山ファームが提供する。
- 5 研修終了後は、市内で就農する。

国の支援制度により、就農前の研修を支援します。研修を終えた独立直後の経営を支援する制度*も用意しています。
※市町村から認定を受ける「認定新規就農者」が対象。



その他の石岡市就農支援施設

超実践的。有機栽培農家を目指す。

ゆめファームやさと

新規就農研修制度

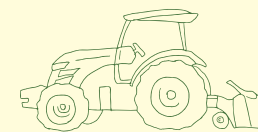


毎年農家が増え、継続的に農業が営まれる

ゆめファームやさとの研修制度は、就農希望者支援と地域農業担い手育成のために行なっている事業です。毎年1家族を受け入れ、実践的な研修を2年間行なった後、地域の生産者として活躍していただきます。

これまで24家族が有機野菜生産者として独立
※ゆめファームは八郷地区内で独立する。）

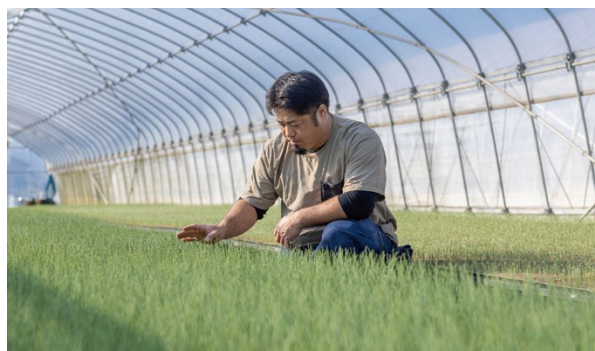
- 1 年齢は45歳までで、夫婦で研修生となること。
（研修後は石岡市内で独立する。）
- 2 研修は2年間。毎年1家族ずつの受け入れがあるため、同時期に2家族が研修を行うこととなる。
- 3 研修農場（1夫婦あたり約1ha）、パイプハウス、トラクター、管理機などの農機具や資材は研修元が提供する。
- 4 研修生は栽培から販売まで自分で行う。栽培に必要な技術は実技を通して身につけ、また不十分な部分についてはJAの有機栽培部会での生産者仲間へ相談したり、指導を受けたりすることで学んでいく。
- 5 国の支援制度により、就農前の研修を支援する。



農業法人で働きながら技術習得!

やさと菜苑株式会社

地域担い手育成事業



正社員として受け入れ 地域の生産者として育成する

同社の地域担い手育成事業は将来的に農業で自立する意思のある方を正社員として受け入れ、地域の生産者として育成することが目的です。設立以来15名を受け入れ、これまで14名が農家として独立しました。今後も積極的に研修生受け入れ、地域農家の育成を目指します。

研修の目的

- 1 農作業の習得
- 2 価格、販売動向などを踏まえた計画的農産物生産の習得
- 3 農地を有効利用した農法・品質向上方法の習得

これまで15名を受け入れ14名が独立

